

2015 7/4 土 長良川河口堰周辺
長良川環境観察会

5 日 長良川国際会議場
〈トーク&シンポジウム〉よみがえれ長良川
～河口堰20年・開門調査実現を！

河口堰20年・開門調査実現を！

よみがえれ 長良川



Free
the
Nagara
River

よみがえれ長良川実行委員会

かつて本流にダムが無かった清流長良川は、今年7月河口堰閉鎖20年を迎えます。いま、世界農業遺産認定の話題で長良川が世界の宝になる期待が高まっています。しかし、汽水域の喪失で下流の生態系は傷つきました。魚も大きな影響を受け、鵜飼で有名なアユは、岐阜市で準絶滅危惧種とされる心配な状況があります。長良川を愛する私たちは海までの繋がりを取り戻したいと願っています。次世代に清流長良川を引き渡せるよう河口堰の開門調査を求めるイベントです。ご参加ください。

DAY1: EXCURSION



7/4 土 10:00～15:00 小雨決行 **要予約**
 場所:長良川河口堰周辺／定員:50名
 参加費:1,500円 現地集合
 3,000円 JR岐阜駅よりマイクロバス送迎
 2,000円 現地集合／帰りのみJR岐阜駅までマイクロバス利用
 ※高校生以下はいずれも1000円引き／要昼食持参

長良川環境観察会 ※詳細はホームページをご覧ください。

河口堰が運用されて20年を迎える環境を観察します。午前、桑名で船に乗り河口堰周辺の川底や川の状態を観察します。午後は、長良川と揖斐川のヨシ原に入り生き物の様子を比較観察します。案内者は元長良川下流域生物相調査団の皆さんです。ヨシ原に入りますので、長靴、長そで、帽子を準備してください。親子での参加、大歓迎です。

- 案内人 **粕谷 志郎** (長良川市民学習会代表)
- 山内 克典** (岐阜大学名誉教授)
- 千藤 克彦** (元長良川下流域生物相調査団)



川原町散策 17:00～18:30

集合場所:鵜飼観覧船事務所前／参加費無料(予約不要)

長良川に沿ってかつては和紙や木材の商いで栄えた、風情のある町屋が並ぶ川原町界隈を散策します。岐阜の「まちづくり」に詳しい岐阜大学・富樫先生らの案内で行います。

- 案内人 **富樫 幸一** (岐阜大学地域科学部教授)

鵜飼観覧船で交流会 18:30～20:30 **要予約**

集合場所:鵜飼観覧船事務所前
 定員:50名／参加費:4,000円 (乗船・飲食代含む)

伝統の長良川鵜飼と川遊び、お料理を、解説をつけてじっくり楽しみながら交流しましょう。長良川鵜飼は地域に支えられて1300年の歴史を持っています。今年3月、「長良川の鵜飼漁の技術」が国の重要無形民俗文化財に指定されました。「地域社会の伝統的知識、工夫、慣行」を守ることは生物多様性愛知ターゲットの目標にもあります。次世代に大切に伝えたいものです。

DAY2: SYMPOSIUM



7/5 日 10:00～16:00 (17:00閉場) 展示コーナーは17:00までご覧いただけます。
 会場:長良川国際会議場(4F)大会議室／入場無料(カンパ歓迎)

〈トーク&シンポジウム〉 よみがえれ長良川 ～河口堰20年・開門調査実現を！

10:00～
 開会あいさつ
粕谷 志郎 (実行委員会共同代表)

報告 「河口堰閉鎖20年 よみがえれ長良川」

河口堰運用20年を迎え長良川はどうなったのか？ 建設計画から今日まで流域住民、漁民、市民団体はどうかかわり、たたかってきたのか？ 清流長良川を次世代に残すために私たちが求める「開門調査」とは？

歴史的な映像や貴重な資料を見ながら考えます。

武藤 仁 (実行委員会事務局長)

10:45～12:00
 次世代につなぐトーク
 「長良川に生きる」

河口堰のゲートが閉じられた年に生まれた子どもたちが今年20歳の大人になります。環境破壊・無駄な公共事業として全国に有名だった「長良川河口堰問題」を若い世代は知りません。

いま「知らない世代」が長良川を守り長良川で生きようと頑張っています。その青年たちと親子三代漁師として長良川で生きてきた漁師が「長良川に生きる」ことを語り合います。

●語り手
大橋 亮一
 漁師／長良川漁協副組合長

平工 顕太郎
 長良川漁船「結(ゆい)の舟」代表
 山下家の鞆舟船頭

浅野 彰吾
 長良川漁協事務局

●聴き手
富樫 幸一
 岐阜大学地域科学部教授

12:50～ KenとMinoruの 長良川ミニライブ

- ♪予定曲
- ①これがボクらの道なのか
- ②この町に生まれて(どてこんの歌)
- ③おかえりたたいま
- ④男らしいってわかるかい
- ⑤あゝ開聞岳!



13:10～
 シンポジウム
 「河口堰の開門調査実現を！」

尺牘で有名な熊本県の球磨川で「荒瀬ダム撤去」工事が2012年から始まっています。日本で初めてのダム撤去で川と海は生き生きとよみがえってきています。

アユの漁獲量日本一の茨城県那珂川では「霞ヶ浦導水路建設」に対し漁協が先頭に立って市民とともにたたかっています。

長良川をよみがえらせるために河口堰の「開門調査実現」を求める私たちが今考えなければならないこと、しなければならないことを討論します。

●パネリスト
 [球磨川・荒瀬ダム]
つる 詳子
 自然観察指導員熊本県連絡会会長

[那珂川・霞ヶ浦導水路]
浜田 篤信
 元茨城県内水面水産試験場長

[長良川・河口堰]
向井 貴彦
 岐阜大学准教授

●コーディネーター
三石 朱美
 国連生物多様性の10年市民ネットワーク

16:00～
 閉会あいさつ
亀井 浩次 (実行委員会共同代表)

展示コーナー

長良川河口堰は、1959年に構想が生まれ、1988年本体着工、1995年より運用開始されました。長良川を守るための活動史をふりかえり、会場では当時の貴重な写真、資料を展示します。ぜひお立ち寄りください。



[長良川国際会議場:交通のご案内]

JR岐阜駅、名鉄岐阜駅より「岐阜バス」乗車(約20分)、最寄バス停下車、徒歩2分。

- 市内ループ線「長良川国際会議場北口」下車
- 三田洞線 K50、K51、K55「長良川国際会議場前」下車

シンポジウム「河口堰の開門調査実現を！」



つる 詳子

自然観察指導員熊本県連絡会会長

熊本県八代市在住。球磨川における川辺川ダム反対運動や荒瀬ダム撤去運動、及びそれらに関連して、球磨川や不知火海をフィールドとした自然観察活動、フィールド調査、漁業者の聞き取りなどを20年前から実施。荒瀬ダム撤去の国内外の関心が高まる昨今は撤去に関する情報発信、流域の案内やエコツアーズム・イベントの企画などにも追われている。



浜田 篤信

元茨城県内水面水産試験場長

1936年福岡市生まれ。幼少期を宮崎県延岡市の漁村で育つ。1962年東北大学農学部水産学科修士課程修了、同海洋学研究室助手を経て1964年から茨城県農林水産部勤務。1996年茨城県内水面水産試験場長を最後に茨城県を退職。同年霞ヶ浦生態系研究所、2007年NPO法人霞ヶ浦アカデミーを設立、湖沼河川の生態系に関する研究に従事。霞ヶ浦開発事業、霞ヶ浦導水事業の見直しを求める市民運動を推進している。農学博士。



向井 貴彦

岐阜大学准教授(魚類学)

1971年生まれ。滋賀県出身。生物の多様性を遺伝子解析と野外調査によって研究し、現在の生物群集の成り立ちと現状を知るとともに、人為的な環境変化からの保全を視野に入れた研究を行う。汽水域や淡水域の魚類を中心とした水辺の動物を主な研究対象とする。「岐阜市版レッドリスト」作成では魚類を担当。愛知県の長良川河口堰検証では最適運用検討委員として活躍している。



三石 朱美

国連生物多様性の10年(UNDB)市民ネットワーク

2010年に名古屋で開催された生物多様性条約COP10を契機に、同条約の関連会議に継続して参加、世界中の先住民や地域コミュニティの代表者と共に、生物多様性が地域の文化や生活にもかけがえのない影響をもたらす、尊重されるべき事を発信している。2004年より日本環境法律家連盟(JELF)事務局で勤務。沖縄ジュゴン米国訴訟などにも取り組んでいる。

次世代につなぐトーク「長良川に生きる」



大橋 亮一

長良川漁師/長良川漁協副組合長

1935年(昭和10年)生まれ。岐阜県羽島市小島出身。祖父から三代の川漁師。弟の修さんとともに長良川の漁を守り続け、現在愛知県長良川河口堰最適運用検討委員を務める。父・定夫さんは、漁協役員として河口堰建設反対の先頭に立った。大橋兄弟と長良川の深いかわりは、『長良川漁師口伝』(大橋亮一・修/磯貝政司/人間社2010)に見事に描かれている。



平工 顕太郎

長良川漁船「結の舟」代表/山下家の鶺鴒船頭

1983年(昭和58年)岐阜生まれ。長良川中流域に現存する地域固有の川風景を次代へ守り残すため、金華山麓の長良川を舞台に鮎を捕らえる伝統漁法の継承、天然鮎の種付け、木造漁舟の修復などに従事。毎夜、山下家の鶺鴒舟を操る傍ら、自身の漁船「結の舟」を開放し、住民や観光客、子どもたちに向けて長良川の魅力と威力に触れる体験型の舟旅を提供。さらに川漁を実践しながら水辺に潜む危険とも向き合い、川での水難事故を防ぐ活動に尽力。水産学部卒。



浅野 彰吾

長良川漁協事務局

1988年に岐阜市生まれ。大学卒業後に長良川漁協に就職。生体管理のため、アユ等の放流事業を始めさまざまな事業を行っています。長良川はアユの天然遡上があり当組合は人工孵化事業に力を入れ天然遡上を守っています。また、個人的にも伝統的漁法、魚料理の美味しさに触れ合う事ができ、今は後継者がいないので先輩漁師に様々な漁法や調理を日々修行しています。長良川とより触れ合う事から今の清流を守り、魚を増やす事を勧めています。



富樫 幸一

岐阜大学地域科学部教授(経済地理学)

岐阜に来た直後に河口堰の本体工事が着工され、全国のコンビナート調査で水事業がとっくに見直されていた中でのことに驚き、木曾川水系フルプランでの工業用水、さらには水道事業の過大な需要予測の誤りを批判してきた。現在、愛知県の河口堰最適運用検討委員会では利水チームで開門調査の代替案を提案している。伊藤他編(2003)水資源政策の失敗—長良川河口堰、等。

「長良川環境観察会」「鶺鴒観覧船で交流会」の参加予約はホームページよりお申し込みいただけます。

お問い合わせ Tel: 090-1284-1298(武藤) Email: yomigaere.nagaragawa@gmail.com

よみがえれ長良川実行委員会 <http://nagaragawa.jimdo.com>

共同代表: 粕谷 志郎(長良川市民学習会代表)/亀井 浩次(NPO法人 藤前干潟を守る会理事長)

〈参加団体〉

伊勢・三河湾流域ネットワーク/板取川自然探索・山童/河口堰建設に反対し、長良川を守る県民の会/NPO法人 ギンブナの会/国連生物多様性の10年市民ネットワーク/「自然の権利」基金/設楽ダムの建設中止を求める会/水源開発問題全国連絡会/中部の環境を考える会/東海民衆センター/導水路はいらない!愛知の会/徳山ダム建設中止を求める会/長良川河口堰建設に反対する会・岐阜/長良川河口堰の水を考える住民の会/長良川市民学習会/長良川水系・水を守る会/名古屋水道労働組合/名古屋水辺研究会/NPO法人 藤前干潟を守る会/ラムサール・ネットワーク日本/リバーポリシーネットワーク(五十音順)

●活動への支援カンパをお願いします。

〈振込先〉 ゆうちょ銀行 00840-3-158403
口座名称: 長良川市民学習会

パタゴニア環境助成金プログラム

patagonia

表紙生物画:

後藤宮子「長良川中流の回遊魚」

元NPO法人ギンブナの会理事長/長良川中流魚類研究家。1925年(大正14年)岐阜県本巣郡根尾村生まれ。高校教師の傍ら研修員として京都大学に通う。関市下白金の長良川の分流・今川で1967年から30年間(長良川河口堰の運用開始直前まで)にわたり、夫(後藤正さん)と共に定置漁法「登り落ち漁」による魚類調査を続けた。回遊魚とは一生の中で川と海をまわって生活し、子孫を残す魚のことです。川と海を自由に行き来できないと、回遊魚は成長することも子孫を残すこともできません。

1. アマゴ(サツキマス)
2. シマヨシノボリ
3. アユ
4. スマチテブ
5. オオヨシノボリ
6. ウナギ
7. ウキゴリ
8. アユカケ
9. カジカ

